

第1回 「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」 開催のお知らせ

公益財団法人リバーフロント研究所

国土交通省で推進している、水辺とまちの未来のかたちをデザインし、持続可能な未来の創造に貢献するための「水辺とまちの未来創造プロジェクト」※の一環として、「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」（座長：陣内 秀信 法政大学デザイン工学部教授）を設置し、検討を行います。

開催概要

1. 日 時：平成25年12月27日（金）13:00～15:00
2. 場 所：災害対策支援船「あらかわ号」船内
※浅草(二天門)船着場(台東区花川戸2丁目1番地先)から乗船し、船内で会議。終了後、明石町・聖路加ガーデン前発着場(中央区明石町14番地先)で下船。
3. 委員等：次頁のとおり
4. その他：会場の都合上、傍聴はできませんので予めご了承ください。

※「水辺とまちの未来創造プロジェクト」とは

世界の名だたる都市では、水辺が周辺のまち並みと一体となり美しく風格のある空間を形成している一方で、我が国では、国の経済的な発展とともにかつての“地域の顔”としての美しい水辺を喪失してしまっています。現在進められている防災・減災対策や社会資本の老朽化対策と一体となって、地域を代表する川と周辺の街並みが一体となって美しく風格のある空間を形成することを目的に、①まちにある川や水辺空間の賢い利用、②民間企業等の民間活力の積極的な参画、③市民や民間を巻き込んだソーシャルデザインの3つを基本コンセプトとして、水辺とまちの未来のかたちをデザインし、持続可能な未来を創造するプロジェクトです。

【お問合せ】 公益財団法人リバーフロント研究所 阿部
電話：03-6228-3865 Email: abe@rfc.or.jp

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」
 コメンテーターリスト

(敬称略・50音順)

	氏名	所属
座長	陣内 秀信 <small>じんない ひでのぶ</small>	法政大学デザイン工学部建築学科教授
コメンテーター	井出 玄一 <small>いで げんいち</small>	一般社団法人ポート・ピープル・アソシエーション代表理事
〃	伊藤 香織 <small>いとう かおり</small>	東京理科大学理工学部建築科准教授
〃	金井 つかさ <small>かない つかさ</small>	三井住友信託銀行株式会社経営企画部 CSR担当部長
〃	岸井 隆幸 <small>きしい たかゆき</small>	日本大学理工学部土木工学科教授
〃	忽那 裕樹 <small>くつな ひろき</small>	株式会社 E-design 代表取締役
〃	久米 信行 <small>くめ のぶゆき</small>	久米繊維工業株式会社取締役会長
〃	紫牟田 伸子 <small>しむ たのぶこ</small>	紫牟田伸子事務所代表
〃	田中 義宏 <small>たなか よしひろ</small>	大阪府都市整備部技監
〃	辻田 昌弘 <small>つじた まさひろ</small>	三井不動産株式会社 S & E 総合研究所長
〃	遠山 正道 <small>とやま まさみち</small>	株式会社スマイルズ代表取締役社長
〃	中島 高志 <small>なかじま たかし</small>	東京都建設局河川部長

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」について

～水辺とまちの未来創造プロジェクト～

1. 背景

世界の大都市では、都市を代表する河川と周辺の町並みが一体となった美しく風格のある空間を形成してきた。

品格のある水辺



プリンス運河 (オランダ)

統一感のある水辺の景観



ヤラ川 (オーストラリア)

街並みにふさわしい水辺利用



ニューハウ運河 (デンマーク)

エリアでのマネジメント



セーヌ川 (フランス)

居心地の良い水辺空間



ライン川 (ドイツ)

水辺における商業利用



道頓堀川 (大阪)

1. 背景

我が国でも、浮世絵に描かれた江戸の下町と大川のように、かつて川そのものが周辺の街並みと融けあって地域の代表的な顔として美しい風景を形成していた。



江戸期の隅田川・両国橋

葛飾北斎「絵本隅田川兩岸一覽」



江戸期の日本橋川ー1



江戸期の日本橋川ー2

2

1. 背景

しかし、高度成長時代を経て現在に至り、多くの都市河川は効率を重視した排水路と化し、町並みからも背を向けられる状況にある。



→河川の合流点。
直立護岸が水辺とまちの融合を妨げている。



→建物が河川から背を向けている



→都市の威容を備え、河畔空間が整備されるも、水辺にかつての賑わいはみられない。



→水辺に近づけず、まちと切り離された空間となっている。

3

1. 背景

近年、我が国の大都市では、民間の再開発などにより都市の再構築が進められ、川や水辺を活かした都市のシンボルとなるような空間を形成する動きがある。



→大規模な再開発が進む日本橋。



→道頓堀川の湊町リバープレイス



OAPHより

→再開発に合わせて、隣接する河畔緑地（河川・公園区域）や船着き場を一体的に整備。（大川）大阪府

1. 背景

折しも、**2020年には東京オリンピックの開催が決定されたところ**である。

国際都市間競争が激しくなり、日本ブランドをいかにメイキングしていくかがますます重要になってきている中、“まちの水辺の活かし方”が、そのまちの競争力を示す指標の一つとなっている。

1. 背景

本プロジェクトは、民間活力（投資、知恵、ノウハウ）を積極的に引き出すための規制緩和等により、世界から注目を集める風格と美しさ（デザイン）を備えた魅力ある水辺空間をまちづくりと一体となつて創出し、持続可能な未来の創造に貢献する。

6

2. 「水辺とまちの未来創造プロジェクト」の基本コンセプト

水辺とまちの未来のかたちをデザインし、「つくる」だけでなく「育てる」ことを視野に入れた持続可能な未来の創造に貢献するため、

- ① まちにある川や水辺空間の賢い利用
- ② 民間企業等の民間活力の積極的な参画
- ③ 市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

の3つを基本コンセプトとして、街における川や水辺の魅力や価値、街における川づくりや水辺づくりに求めること、賢い利用、各主体の関わり方等について考え、水辺とまちの未来を創造していくための取り組みを推進していくことを打ち出すこととした。

7

3. 1 「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」の設置

各界の有識者等からなる懇談会を設置し、ご意見・アイデア等をいただきながら、美しさと風格を備えた魅力的な水辺とまちの未来創造に向けたメッセージを以下の4つの視点から打ち出し、発信する。

【視点1】 我が国の水辺の魅力・価値

【視点2】 水辺の魅力・価値を街づくり・地域づくりの中に活かす方法・アイデア

【視点3】 民間企業の貢献

【視点4】 各主体（民、産、学、官）の関わり方

3. 2 スケジュール(案)

第1回懇談会 = 12月27日（金）13：00～

第2回懇談会 = 1月16日（木）10：00～

第3回懇談会 = 2月7日（金）13：00～

第4回懇談会 = 2月27日（木）13：00～